

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

事業所名		社会福祉法人 地の星 多機能型 ベロニカ苑		第三者評価受審年度	2018年度
項目	評価結果に基づく現状分析 (2018年度)	改善計画 (2018年度末時点)	実施状況 (2019年度末時点)	実施状況 (2020年度末時点)	
複雑な勤務体系の改善について	新事業の開設やグループホームへの対応などで勤務体系が複雑化しており、職員自己評価でも改善要望が挙がっている。	職員の採用には、ハローワークだけではなく、大学周りなども実施。次年度以降も続けていき、採用に力を入れる。また、職員への休暇希望はほぼ100%反映しているが、一部の職人に偏りがあり、公平に取得できるよう、シフト調整を行っている。	今期の目標採用職員は概ね採用ができた。来期採用に向けて、各責任者が大学を周りを実施。また、職員を紹介したときは表彰と報奨金を授与。今後も続けていく。 職員の休み希望は変わらずほぼ100%の希望をシフトに反映しているが、隔たりは大きく、再度職員間で土曜、日曜日、連休を公平に取得できるように協力を仰ぎ、また、常勤の勤務は変形労働制であることも再度周知していく。	HPや採用媒体、自主チラシを配布するなど、職員募集もできる限り行ってきた。しかしコロナ禍のこともあり、充足するまでには至らなかった。また、今年度は職員が少しでも休息できるよう、特別休暇(指定休暇)も付与した。そのため、法人全体でフォローしながらの運営となった。来年度事業計画にできる限り各事業所で完結するシフト作りができるよう、職員採用・育成を重要課題として取り組む目標を立てた。	
事業所の知名度や提供サービスの周知のための取組みについて	B型事業所や短期入所などで、新た利用者の獲得、スタッフ不足の改善など、課題を解決するための広報活動の充実が課題となっている。	ホームページを専門業者に委託、充実を図り、こまめに更新を行い、情報を提供していく。イベント時は手製のハッピーTシャツを着てPRしていく。	ホームページは担当職員を配置し、行事の予定、報告をこまめに更新し、リアルタイムに情報発信している。各事業所イベント毎にチラシやポスターを掲示して、PR活動を行っている。	前年度同様の取り組みを続けた。特にHPは、よりスピーディーに発信していくように、心がけた。就労では、販売している菓子等をインスタグラムに投稿して、より多くの方に情報が伝えられるよう努めた。	
就労移行支援、継続支援での利用者の特性に合った取組みについて	就労継続B型は開始して1年半ということもあり、就労移行支援の下請け的な作業が多い。今後利用者の障害特性に合わせたプログラムの開拓。	生産活動を就労移行、B型ともに合同で行うこともある。B型独自では機織りや販売業務、利用者の特性を生かした、切り絵はがきの作成など、得意分野を担える作業を提供していく。	利用者の特性に合わせ、B型の利用者が就労移行に出向き、ジャムや菓子作りを一緒に行っている。得手不得手はあるが、作業を細分化することで、利用者が関わられるように工夫している。	ジャムや菓子作りが得意な利用者は、生産作業に、接客業が得意な方は、販売や納入作業、その他、ミシンやアイロンがけ、切り絵作り作業などと、利用者個々に合わせた作業を行い、得意とする能力を養えるよう工夫した。また、実習にも出向き、実践で本人の特性を判断する機会を設け、1名の就職先が内定した。	

※この様式は、「〇〇市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価の結果は、施設において公表しています。

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

事業所名		社会福祉法人 地の星 共同生活援助 ひかり			第三者評価受審年度	2018年度
項目	評価結果に基づく現状分析 (2018年度)	改善計画 (2018年度末時点)	実施状況 (2019年度末時点)	実施状況 (2020年度末時点)		
複雑な勤務体系の改善について	日中職員の応援などで勤務体系が複雑化しており、職員自己評価でも改善要望が挙がっている。	職員の採用には、ハローワークだけではなく、大学周りなども実施。次年度以降も続けていき、採用に力を入れる。 また、職員への休暇希望はほぼ100%反映しているが、一部の職人に偏りがあり、公平に取得できるよう、シフト調整を行っていく。	利用者支援第一の勤務体制なので、ホーム職員だけでは対応できない。夜勤専門職員の増員により日中職員の応援は減りつつある。有給休暇や研修等による応援体制も続いている。職員募集は継続している。	夜勤専門職員が増えてきており日中職員の応援が少なくなってきた。しかし、週1回程度の勤務なので、引継ぎがスムーズに行えているとは言い難く、研修も個別に実施するなど工夫している。		
事業所の知名度や提供サービスの周知のための取組みについて	利用者の家庭であるホームについて、住所等の公開をしたくないとの思いが強かったが、利用者の生き生きとした生活などを伝えていく工夫をしていく。	ホームページを専門業者に委託、充実を図り、こまめに更新を行い、情報を提供していく。誕生会や外食、交流会などで写真を撮り、広報誌やホームページで紹介を始めた。	総合支援法に定められたサービス提供記録だけでなく、担当世話人が毎月支援計画に沿った記録をご家族や成年後見人にお渡ししており好評である。ホームページも充実してきている。	個別支援計画に沿ったサービス提供記録作成は担当職員が丁寧に行っている。この記録や通院・余暇活動のヘルパー依頼を行う事務作業の時間が取りにくく今後の課題である。		
利用者及び家族の高齢化に備えて、入院・死亡時の家族との役割分担について	利用者の高齢化・重度化により医療的ケアの必要性などが課題となり、現座は一義的に家族に任されている医療関係について、家族の高齢化も視野に入れ、将来に備えた対応の検討が必要と思われる。	親御さんが元気な利用者の通院には医療機関などへの同行をお願いしている。必ず通院報告書をいただき、医師からの申し送り事項を把握できるようにしている。高齢化のご家族には成年後見制度利用を勧めている。契約書には入院時の役割を明確化する内容を検討する。	医療機関への同行は契約書別紙によりお願いしている。健康状態はできるだけ詳しくご家族や成年後見人に伝えるようにしている。入院・死亡に関しての決定権はご家族や後見人にあるので、日頃の健康管理をしっかり行い、連絡を密に取るよう心掛けている。	通院・入院について、ご家族の協力をいただき、健康管理ができています。成年後見人さんでも協力し支えてくださる方もいる。利用者がお元気な時はよいが、感染症などの非常事態の場合の見通しができていない。		

※この様式は、「〇〇市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価の結果は、施設において公表しています。

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

事業所名		社会福祉法人 地の星 短期入所 (のぞみ、虹)			第三者評価受審年度	2018年度
項目	評価結果に基づく現状分析 (2018年度)	改善計画 (2018年度末時点)	実施状況 (2019年度末時点)	実施状況 (2020年度末時点)		
複雑な勤務体系の改善について	日中職員の応援などで勤務体系が複雑化しており、職員自己評価でも改善要望が挙がっている。	職員の採用には、ハローワークだけではなく、大学周りなども実施。次年度以降も続けていき、採用に力を入れる。 また、職員への休暇希望はほぼ100%反映しているが、一部の職人に偏りがあり、公平に取得できるよう、シフト調整を行っていく。	利用者支援第一の勤務体制なので、ホーム職員だけでは対応できない。夜勤専門職員の増員により日中職員の応援は減りつつある。有給休暇や研修等による応援体制も続いている。職員募集は継続している。	夜勤専門職員が増えてきており日中職員の応援が少なくなってきた。しかし、週1回程度の勤務なので、引継ぎがスムーズに行えているとは言い難く、研修も個別に実施するなど工夫している。		
事業所の知名度や提供サービスの周知のための取組みについて	グループホームに併設されている短期入所施設であるので、ホーム利用者の生活を尊重できる方に利用していただいている。利用者募集について積極的に行っていない。	ホームページを専門業者に委託、充実を図り、こまめに更新を行い、情報を提供していく。グループホームの誕生会や外食、交流会などで写真を撮り、短期入所が併設されていることを広報誌やホームページで紹介を始めた。	夜勤等の職員に利用者情報を丁寧に伝え、できるだけ快適に過ごせるよう対応している。また、グループホーム利用者ともトラブルなく滞在できるように相性を大切にしている。	2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で短期入所を閉鎖する期間が多くあった。また、事業を再開しても、状況を心配しキャンセルの方が多かった。		
短期入所の空床の解決のため、新規利用者確保の課題について	1回の利用期間が短く、また利用が特定の期間に偏在しているという構造的な問題も生じている。法人内利用者以外の新規利用者確保の積極的な働きかけが必要である。	ホームページや支援センターと繋がっていく。空床であることのメールで利用者募集を働きかける。	利用状況(空き状況)を法人利用者の家庭にメールで知らせていたが、法人外の利用者家族にも伝えるようにした。	新型コロナウイルス感染症対策をホームページやお便りで公表し、安心して利用されるよう働きかけている。		

※この様式は、「〇〇市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価の結果は、施設において公表しています。